

「ヒトメタニューモウイルス」ってなに？

聞き慣れないウイルスの名前を聞くと、不安に思われる方は多いと思います。

2001年にオランダの研究者によって発見された比較的新しいウイルスの一つです。世の中には見つけられていないウイルスの方が圧倒的に多いのですが、技術の進歩の恩恵を受けて、確認されるウイルスが増えてきています。ヒトメタニューモウイルスもその流れのなかで見つけ出されたものになります。

「ヒトメタニューモウイルス」はその遺伝子構造が「RSウイルス」とよく似ています。いわゆる風邪に似た症状が出るのが特徴です。いわゆる風邪ですので、小児科の先生にかかったとしてもわざわざ検査もされないことも多いです。風邪ですね、様子を見ましょう、と言われている場合もその一例です。

特徴としては小さな子どもが罹患しやすく、5歳になるまでにはおおよそその子どもたちが感染していること、年齢が小さいほど重症化しやすい傾向にあることなど、RSウイルスと同じ特徴を持っていると言われていています。流行時期については、春からの5-6月にかけて患者数が多くなる傾向があります。

主な症状は鼻水や咳、痰などの風邪症状です。他に、発熱や発疹が出ることもあります。1歳未満の場合は重症化しやすいと言われており、気管支炎から細気管支炎にまで炎症が進んでしまうこともあります。こうなると、症状が長引くことがあります。その反面、年長くらいになると症状が軽い傾向があります。場合によっては感染していたとしても症状が出ない「不顕性感染（ふけんせいかんせん）」で済むこともあります。

大人も感染することはありますが、症状があったとしても鼻風邪程度で終わることが多いのも特徴です。

年齢によって出てくる症状に大きな違いがあるのはなぜなのでしょう。

それは、ヒトメタニューモウイルスが毎年繰り返し感染するものでもあり、1シーズンに何回もかかる可能性があるためです。このように同じウイルス感染をなん度も繰り返すことで徐々に免疫が獲得されていきます。

ヒトメタニューモウイルスには特効薬はありません。とにかく休息を得る、ということが一番の滋養であり、治療になると言われています。仮に感染していても、水分が摂取できていて本人が辛くないようなら問題はありません。熱がなく、症状が重くなければ登園への制限も特には設けられていません。ただ、体力的な問題があるので、子どもの状態をよく観察して、登園するかしないかを判断いただければと思います。